

岡崎城下二十七曲りシンポジウム	
日 時	平成 23 年 1 月 30 日(日) 13:30 ~ 16:30
場 所	図書館交流プラザ「りぶら」会議室 301-303
来場者数	116 名
出席者	<p>(岡崎市 副市長) 加藤邦彦 (愛知教育大学名誉教授) 新行紀一(しんぎょう のりかず) 名誉教授 (NPO 岡崎都心再生協議会) 白井宏幸(しらい ひろゆき) 理事長 (八丁味噌協同組合) 浅井信太郎(あさい のぶたろう) 氏 (岡崎市ウォーキング協会) 植野誓子(うえの せいこ) 会長 (合名会社備前屋) 中野敏雄(なかの としお) 氏 (岡崎中央ライオンズクラブ) 平松隼司(ひらまつ いつし) 氏 (岡崎市) 齋藤企画財政部長、石川政策推進課長 政策推進課:神尾班長、富田、服部、加藤 (ランドブレイン) 亀井、藤本、加藤</p>
主催者 あいさつ	<p>岡崎市 副市長加藤邦彦 (加藤)みなさんこんにちは、本日はお忙しいところ二十七曲りのシンポジウムに多数ご参加いただきまして、本当にありがとうございます。</p> <p>本日のシンポジウムのテーマであります岡崎城下二十七曲りですが、今日はこのシンポジウムにご参加いただいているのは、ほとんど岡崎の方だと思いますので、なじみ深い話だと思います。私は岡崎の人間ではなく、3年前くらいに岡崎に赴任しましてすぐ二十七曲りを知り、さっそく地図とカメラを手に歩いてみました。しかし残念ながら地図もあまりよくなく、自分がルートどおり歩いているかすぐにわからなくなったり、なかなか岡崎らしさが感じられませんでした。</p> <p>そういった中、市役所で声をかけましてウォーキングルートをつくっていただいて、特に若い職員を中心にいろいろアイデアを出してもらいました。最初の議論のきっかけとしてまず「ルートがはっきりしない」ということがわかりました。長年みなさんに取り組んできていただいて、まだルートも確定していないということで、今日基調講演をいただく新行先生にもご尽力いただいて、まずルートを確定させようということになりました。またお手元に配っておりますような、もう少しまとめた「マップ」、また「金のわらじの道しるべ」なども設置をさせていただき、今後の話でございますが道路標識の交差点直進、右折、左折の表記なども今後の市の事業の中でやっていきたいと考えております。</p>

	<p>しかし、こういった取組みを市役所だけでやっても限界があるということは最初のころからはっきりしていました。官だけではやることもしており、やはり暮らしておられる方、商売をされている方、沿道の住人の方を含めまして市全体で取り組まないと、岡崎らしさは生まれてこないのではないかと実感しました。これまでもライオンズクラブの方々、あるいはテーマごとの様々な取組みもございましたが、もう少し全体的に調整がとれて目立つようにすれば、効率的な整備がされるのではないかと考えております。</p> <p>今日のような会合を通じて市民の皆様、我々官、また関連する方々で問題意識が共有されていくといいのではないかと考えます。これでうまく整備が進んでいけば、本当に岡崎のためになる、岡崎城にも負けないような、立派な景観資源、観光資源になっていくのではないかと確信しております。</p>
<p>基調講演</p>	<p>「二十七曲りの歴史的価値と魅力」愛知教育大学名誉教授 新行紀一氏 (新行)ご紹介いただきました新行でございます。本日は「二十七曲りの歴史的価値」という演題をいただいております。それにふさわしい話になるかどうか、難しいところはございますが、後ほどそれぞれのお立場の方々のご発言も含めて、皆で考えていければと考えております。</p> <p>二十七曲りとは？、本当にあったのか あつたといえばあつた、なかつたといえばなかつたという二十七曲りについて、「<u>あつたとすればどこを通過していたのか</u>」「<u>それを証明できる材料は何なのか</u>」、基礎資料を集め報告書にして、それに基づいて現段階で「<u>二十七曲りとは、このようなものであつた</u>」ということをもとめて提示する市のプロジェクトが3年前に発足した。</p> <p>二十七曲りの基礎的資料の刊行 「報告書 東海道岡崎城下二十七曲り」については、いずれは正式に刊行し、一般頒布もされる。</p> <p>現段階で判明している二十七曲り ・パンフ「岡崎城下二十七曲り」の赤い線が、(あるかどうかは別として)江戸時代の東海道の道筋は大体このようではなかつたのか、という推定のもと作られた地図である。 ・スタートは冠木門に始まり、赤い石碑(二十七曲の曲がり角に設置)を数えると19(A～R)だけで、今はそれ以上確認できない。江戸時代に本当に27あつ</p>

たかは確認できない。

二十七曲りを知る方法 (資料)・・・絵図・地図

城下町絵図

東海道分間延絵図(注 1)

近代市街図 明治前期 「ヤスヲヒ町」(明治8年、1875年)

地籍字分全図 明治17年頃 実測 縮尺1200分の1

近代市街図 明治後期～昭和前期

～ を調べて、実際に歩いて現マップ上の位置であろうと考えた。

(注 1)幕府、道中奉行が全国の測量1800分の1に基づいて制作した道路地図。全国支配をしている幕府にとって必要な情報(問屋、馬、宿、人夫、本陣の位置、橋、常夜灯など)が記載されている。

二十七曲りという言葉 (表現)

- ・江戸時代、城下町であり宿場町であった岡崎の地元の人で、二十七曲りの存在を語った人、記録は確認できていない。
- ・十八世紀の中頃から旅人の記述(旅行記・旅行案内)の中に、保証はないが、「岡崎城下の二十七曲り」という話が出てくる。二十七曲りという言葉は、地元からではなく旅人の観察者の目で作られたもののようである。
- ・当時材木町から板屋町にかけての階段状になったところは、「七曲り」という表現をしたことが戦前出された岡崎市史には書いてある。地元で言っているのはここまでである。
- ・「七曲り」が「二十七曲り」になった謎は答えが出ない。ただ旅行者の記録には「二十七曲り」という言葉があったことだけが言えるだけ。

道筋の変遷 (江戸時代～明治維新)

- ・江戸時代、岡崎城を回り抜けていく道筋は確かにあった。道筋の絵は「城下町絵図」に出てくる。特に「東海道分間延絵図」に詳しい。
「東海道分間延絵図」でもって道路の概略はわかるが、(画法上)斜め(南)から見た図であり、小さすぎて道の曲がっているところはわかるが詳細がわからない(実測であるが巻物のため、絵図としての平面的には実測通りではない)。
- ・当時の道路地図は、軍隊の運用のための図でもある。東海道の宿場町、天守閣のある岡崎城の軍事的意義のための道路配置、防御への配慮で道路の屈曲が整備されたと考えられる。
- ・乙川から河岸段丘の上にはしか町が作れないという地形的な条件の中で、軍事的要件を考えた道路配置である。「城がまっすぐ見通せない」「すぐ迎撃できる」ために二十七曲りがあったと考えられる。

- ・時代が平和になると軍事的意義は失われたが、一度造られた道路はそのままになった。

道筋の変遷 (明治前期～明治後期)

- ・1873年大政奉還、廃藩置県で岡崎城天守閣が取り壊しになったとき、江戸時代の建築物の意義はなくなり、城の敷地も民有化され武家屋敷も払い下げられたとともに東海道も姿を変えた。城を回り込む東海道の道筋に近道ができた。これが第一段階の明治前期。
- ・天守閣が取り壊され、やく80年城が無かっただけでなく、門、土塁も壊され、堀も埋められ、さまざまな改変が加えられた。
- ・それまで武士の居住地で一般の民衆の土地ではなかった、康生町(旧:ヤスラヒ町)も門が2、3箇所残されただけであった。そこに新しい道路ができた。
- ・地籍字分全図上(新道の表記位置)の詳細な地誌によって、分間延絵図の1800年頃からの80年で新しい明治新道ができたことがわかる。いつできたかは明治8年説と明治11年説がある。これが第一の東海道の変化である。
- ・地籍字分全図は1100分の1。当時を知るにはいい材料。
- ・幕府が倒れてからの20年に東海道も少し変わっている。例えば、松葉惣門の道路は明治になって改変された跡である。こうしたことは東海道分間延絵図と地籍字分全図を比較すると基本的なところはわかり、東海道を考える上では基本的なデータである。

道筋の変遷 (明治後期～戦前)近代市街地の形成

- ・その後、岡崎の新しい町づくりが始まり第二次の変化が起こる。明治45年から約3年かかった区画整理を伴った事業。
- ・1927年(昭和2年)発行の岡崎市街地図にある伊賀川は、江戸時代には無かったが、堀をつなげ早川に合流させた新しい川である。
- ・伊賀町から広幡町、大地の低い部分、西側について作り変えたことがわかる。以前の伝馬通の曲り角は、まっすぐ突き抜けて康生町につながっている。二十七曲りの角が無くなった。
- ・伝馬公設(市場)はもともと米騒動の後にできた市の施設である。それを戦後建て直してアパート(県営住宅)にしたもの。魚屋町周辺の道も江戸時代とは異なる。伝馬通りは長く江戸時代のままであったが大正年間に整備された。
- ・市役所は今のNTTのところ。戦後まであったのは、上魚町にあった常磐館(中野本陣跡)という映画館、岡崎劇場、宝来座。
- ・電車は昭和62年まであった。
- ・都市改造が行われた結果、城の西は区画整理で以前の姿がわからなくなったが、東側はあまり変化がなかった。

	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和12年に国道1号線が全通し、東海道から国道1号線への大きな変化が起こった。 <p>道筋の変遷 (戦後～)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和20年7月20日から29日にかけての空襲によって町が焼き払われた。 ・戦災復興事業、市拡大による道路拡幅、大規模区画整理が行われて、昭和2年まで基本的には変わらなかった町割りを大きく変えてしまった。 ・残った部分は、伝馬通りだと永田屋、大黒屋。大黒屋は道路拡幅で北へ移動した。 ・復興計画図上、斜線は焼け残った部分、斜線の回り白いところが拡幅した部分。 ・消えた道路もあり、焼けた木造家屋、町家も建て直しすっかり様子が変わった。従来は、道は狭く、家は低く黒い日本の町並であった。 ・現在は、戦後復興の建物がさらに建て直され新しくなっている。 ・戦前は城の跡地に刑務所、裁判所などの公共施設があったが、そういうものも昭和40年代に外へ出した。 <p>今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路がなくなっている、東海道そのものの変化、町の変遷を考えると、いくら地図の上、現地を歩いても二十七曲りの跡は辿れない。 <p>現段階ではおおよそあったものがわかるという事実ではあるが、歴史を踏まえた上での変遷を考えて行くこと、それをどう活かすかというのはこれからの課題である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦前以来の建築物、焼けなかった寺などと組み合わせる。 ・旧本多邸を移築させる話があるが、それをうまく使って地域を考える手がかりにする。 ・変遷をたどりながら、基本的にお城を西の端とする台地の上に町が展開しているという事実、町の有り様は変わらない。そうしたことを活かして二十七曲りという道筋の手がかりをまとめていくことが良いのではないか。
<p>二十七曲りの学習成果報告等</p>	<p>市の取組み報告</p> <p>(富田)岡崎市が取り組んで来た二十七曲りの紹介</p> <p>人材育成・・・総合学習の時間を使い、梅園、根石、連尺の3小学校で二十七曲りについて学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次世代に地元の歴史遺産を知ってもらい、興味を持ってもらうきっかけづくり

- ・ 児童による事前学習、実際に二十七曲りを歩く(岡崎観光ガイドの会に協力
 いただいて児童への説明)、グループで取りまとめ
 根石小学校・・・冠木門から両町のあたりを学習
 梅園小学校・・・伝馬通りを中心に学習
 連尺小学校・・・八丁まで二十七曲りの西について学習

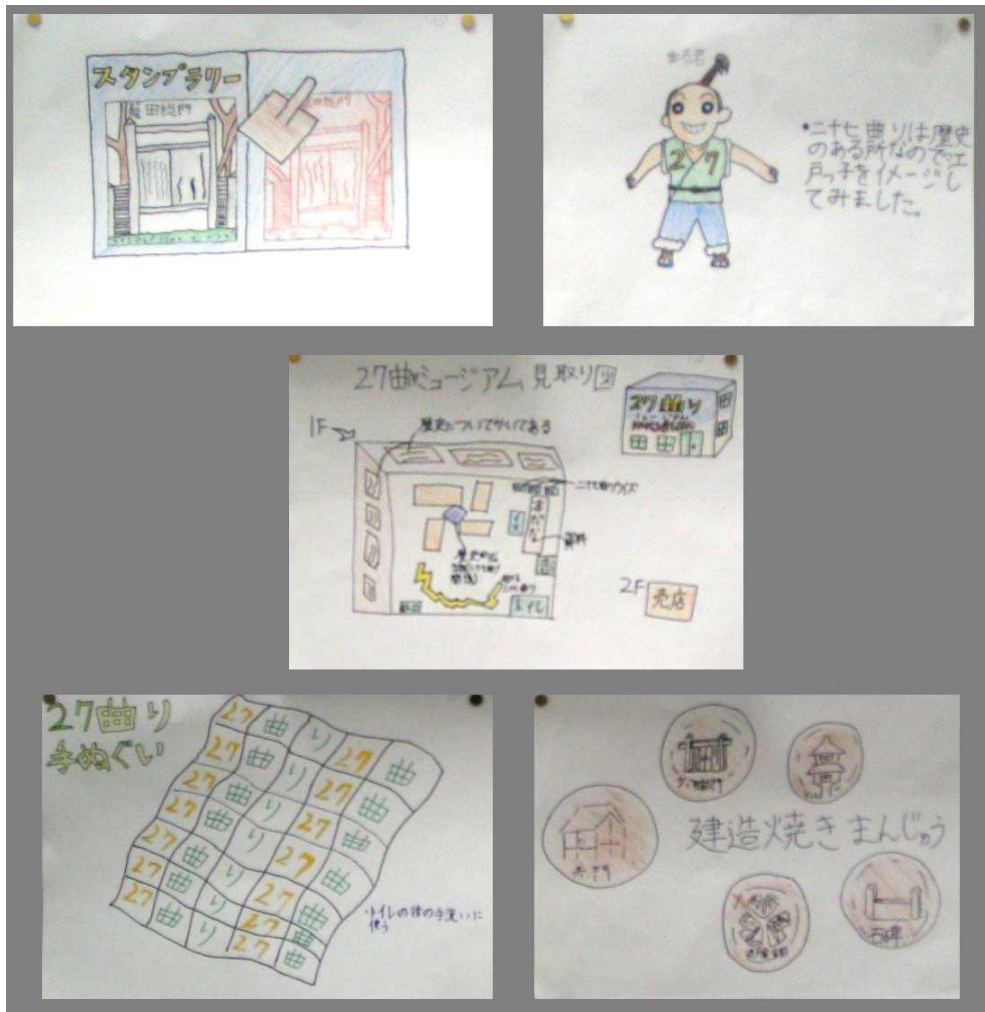
学習活動の様子 of 解説

- ・ あわ雪茶屋・・・昔のあわ雪は甘くない豆腐だった。
- ・ 根石小学校の歴史
- ・ 伝馬歴史プロムナード
- ・ 両町の常夜灯が一番古い。伝馬町の常夜灯は二十七曲りで一番大きな常夜灯。
 籠田公園の常夜灯は昔の市役所のあたりに設置してあったものを作り直した
 もの
- ・ 連尺・材木の石碑を調査
- ・ 西岸寺の住職のお話を聞く
- ・ 允文館・允文館跡で実際に石碑を調べる。允文館の松が現在も連尺小学校で
 保存されている
- ・ 連尺の名前の由来・・・昔、背負子を背負った商人が多く行き来していたことか
 ら
- ・ 新田白山神社は家康公が建立した神社
- ・ 田町・板屋の名前の由来、昔は田が多かった。木で屋根をふいた家が多かっ
 た。
- ・ 八丁の名前の由来は、岡崎城から八丁ほどの距離だった。
- ・ 岡崎名物の成り立ち、味噌づくりは矢作川の水運で材料が手に入りやすかつ
 たから
- ・ 松葉惣門、昔は城の西の玄関であった。

ルートの周知・・・調査等にもとづき、実際歩くことができるルートマップ(印
 刷物)を作成、現場に表示

- ・ 「岡崎城下二十七曲りまち歩きマップ」を制作。岡崎公園の案内所、観光協会
 売店等で配布。この四月には、報告書という形で刊行する予定である。
- ・ 金のわらじ・・・二十七曲りの角に 13 基設置。設置が難しい所は案内板設置。
- ・ 伊賀川の三清橋のポケットパークに石碑設置。今後マップに反映。石柱は中
 央ライオンズクラブにご尽力いただいた。
- ・ 今年度中に、地元小学生 6 年生の足型をデザインした 3 基のフットライト設
 置。

	<p>市民の活動・・・市民イベントの応援、民間の取組みの応援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食べ歩きツアー(商工会議所の主催)、今年度10月31日に開催110組 220人参加 ・ ウォーキングツアー(中央ライオンズクラブ) 約200人参加 ・ 「浴衣でキメよう"わしゃれ"二十七曲りい」(NPO 岡崎都心再生協議会) ・ 「わらじで歩こう二十七曲りい」(NPO 岡崎都心再生協議会) ・ 21年度からは、JR 東海の「さわやかウォーキングツアー」の常設コース コース名“ぶらり岡崎 伝統の八丁味噌と東海道二十七曲り” ・ 柄沢先生の「塩の道屏風」三河湾の塩が信州まで運ばれていく道の屏風紹介。 チラシ等の背景に使用。いずれ皆様に紹介。 <p>根石小学校のビデオ紹介 「ニュース番組をつくろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「ニュース番組をつくろう」全員でニュースを伝える形式、インタビュークイズ形式で二十七曲りを紹介 <p>梅園小学校のビデオ紹介 未来の二十七曲り (アイデア)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スタンプラリーができる博物館をつくる ・ 博物館の資料で詳しく知ってもらう ・ マスコットキャラクター(まがるくん)づくり ・ 建造焼きまんじゅうなどの名物をつくる ・ 二十七曲り手ぬぐい、ミニタオル制作 ・ 二十七曲りミュージアム (1F 資料展示 2F 売店)
--	---



(児童の感想)

- ・二十七曲りは田中吉政が作ったのが驚きだった。徳川家康が作ったのだと思っていた。
- ・すごく近いところも歴史がいっぱいあることを知った。
- ・町のことを知らない人がきっとたくさんいると思うから、調べたことを知らせてあげたい。
- ・社会の授業で習った大名行列が泊まる場所が近くにもあるのを知った。
- ・歴史は教科書の中だけではなく、自分の住んでいる町にもあることを知った。
- ・ガイドさんが、ボランティアで町を紹介している。これからその知識を役にたてたい。
- ・今商店街が暗いので、二十七曲りでにぎやかになって明るくなってほしい。

<p>パネル ディスカ ッション</p>	<p>テーマ：「二十七曲りを活用したまちづくり」 <コーディネーター> NPO 岡崎都心再生協議会： 白井宏幸理事長 <パネリスト> 八丁味噌協同組合： 浅井信太郎氏 岡崎市ウォーキング協会： 植野誓子会長 合名会社備前屋： 中野敏雄氏 岡崎中央ライオンズクラブ：平松聿司氏</p> <p>(白井) テーマは岡崎の歴史的な地域資源である二十七曲りを活かして、地域の活性化に役立てたいということです。地域の活性化とは、二十七曲りを軸に皆さんが元気になって幸せになっていくことだと思います。</p> <p>参加者へのアンケート</p> <p>二十七曲りを知っていますか? 二十七曲りを意識して歩いたことがありますか? 天気がよければ二十七曲りを歩いてみたいですか? 二十七曲りの認知度は平成20年にイベントを行った時、知っている人は63%、歩いた経験のある人が41%だった。市外での認知度は低い。市内の小学校の児童も知らないのではないかと。</p> <p>アンケートを取るときは、まず自分で実際街角に立つことが大切である。 八丁味噌を知っている人は?</p> <p>(団体の取組み状況の報告、今後の活用に向けた提案)</p> <p>(浅井)八丁味噌(カクキュー、まるや)は民間施設で市外からお客様がいらしている。年間30万人強、カクキューさんに20数万人、まるやに8~9万人。お客様を東海道まで案内して、二十七曲りの話、東海道の話をするとき、お客様にその頃の風景を想像してもらおうと喜んでいただける。そういう話ができる岡崎に八丁味噌がある(ことはうれしい)。</p> <p>春、秋に「きらりまつり」をおこなっており、カクキュー・まるやの工場とともに、昨年は特に市内の方に来ていただきたくて、二十七曲りを歩くプログラムを組んだ。これからもやりたい。</p> <p>(白井)今年は5月末、ホームページを見ればわかりますね。 現代、東海道をイメージするものはないが、お客様にどれだけイメージをつくれるかは、誰かが昔のストーリーを語ることで可能である。大切なのは二十七曲り、そこにどれだけストーリーがつくれるかである。</p> <p>備前屋を知っている人は?</p>
------------------------------	---

備前屋のCMのメロディーが浮かぶ人は?

(中野)備前屋のコマーシャルは初め電気屋のテレビで流した。大変な反響であったことを記憶している。

(白井)中野社長は、歴史プロムナードを作ったり、モダン通りの柳の街路樹等に尽力したり、町への思い入れがある。中野社長の町への思いをお聞かせ下さい。

(中野)モダン通りは昭和2年に完成した。大正モボモガの時代に東岡崎からの道ができ、(銀座のように)柳を街路樹として植えた。現在は、私の店の前に4本だけしかない。

歴史プロムナードは私の思い入れを集約した。田中吉政は岡崎から筑後柳川へ移り、その歴史的経緯から柳川とは今でも交流がある。田中吉政という歴史を軸にして、交流を楽しみたいという個人的な気持ちもあった。

(白井)平松さんは、いろいろな活動をされていると思います。石碑は今いくつになりますか。

(平松)石碑、石標、案内板を入れて、今20基くらいになる。私は34代目ですが結成4周年目31年前(1981年)から取り組んでいる。籠田総門跡のところが最初の寄贈で、一番新しいのは三清橋の「田町北角」の石碑。

(白井)歴史を通して交流が生まれる、歴史を創って行くという考え方があります。今、皆さんで現代平成の二十七曲りの歴史を作っているといえる。他にもウォークラリーなどもされていますね。

(平松)石碑を建立したときは、ガイドをお願いしてウォークラリーをおこなっている。市内の方もですが、名古屋など市外から来られる人が真剣に話を聞いていただける。

(参加者ガイド)歴史的な話ばかりではなく、(目的が)親子連れのスキンシップなものであったりするので、様々なお話、もちろんお城の話、歴史の話などもする。磯部ろうそくさんの話、林さんの弓の話、八丁味噌の話もする。帰りにはほとんどの方が岡崎の公園の売店で八丁味噌の土産、お酒を買う。

(白井)植野さんは全国を歩き、岡崎のウォーキングイベントを主催されています

が、そのへんのお話をいただけますか。

(植野) 平成12年に岡崎ウォーキング協会を設立した。歩くことは健康、自分の住んでいるところの歴史を学ぶ、人との交流という良いことがある。交流し話をすることは大変に魅力がある。平成12年12月に、二十七曲りの話を聞き歩いてみたが、実際は魅力に欠けた。

二十七曲りは、全国に発信しなければならない。

八丁味噌さん、備前屋さんの話も聞き知識が増えて、平成14年8月にもう一度歩くと最初とは目に留まるところがちがってきた。

岡崎文化百選に従って、体力によって宿場町と城下町を2種類のコースに分けてウォークラリーを行った。観光ガイドさんに話をしていただいた。話を聞きながら歩く、知識があるとだんだん魅力が大きくなる。

平成19年には二十七曲りでクリーンウォークをした。ただ、二十七曲りの中には休憩場所がない。

(白井) 魅力はどうやって生まれるのか。掘り下げて魅力が出るとすれば、要素は食や景観、提案として輝いている人を全面に出したい。この3つの選択肢の中で考えたい。

食については二十七曲りせんべいもありますが、岡崎にちなんだ食がある。

(中野) それぞれの土地には、そこにちなんだものがあります。

私も商売をしており、二十七曲がりの商標登録もしています(備前屋)。岡崎の歴史にちなんだ名前を商売に利用させていただいている。

(白井)

食について二十七曲りともっと関連させたらいいと思われる方?

二十七曲りの景観をもっと保存していったらいいと思われる方?

二十七曲りを語ったり、活躍したりする人に焦点をあててPRしたらいいと思われる方?

景観を守るのは人、人の思いが景観を守る。

3つとも大切だし、それぞれの人が自分の思いでやっていくことが連携していくことが大切。

3つ以外にもまだあると思うが、私たちはNPOなので支援したいと思う。

岡崎以外の人にもっと発信した方がいいのか。市民の人からもっと知ってもらった方がいいのか。

地元の人がまずよく知っていることが大切かもしれない。

(平松)この地図を作ったきっかけが参考になる。25周年記念事業として初めて大手門の前に石碑をつくった。きっかけは市民が二十七曲りを知らないからだった。自分の家の前のことを知らない。

(白井)まず自分たちが二十七曲りを知る。そこで自分たちの好きなこと、誇れること、興味を持てることを1つでも持つ。それによって歴史だとか、他の人に話すことができる。

では、今後二十七曲りを軸に、今後どのように歴史を作っていくかというのかお聞かせ下さい。

(植野)歩くという点ではちょうどよい距離である。全く歩いたことのない人で説明をしっかりと聞いてもらおうとすれば、宿場町と城下町との2コース用意して2回に分けるのが適当である。1時間で3.5～4キロ位の距離。ガイドさんに説明を聞きながらだと3キロ位しか歩けない。1時間位のコースが適当。二十七曲りをよく知っていただこうとすると、ガイドさんだけでは大変である。所々に説明をしていただけの方にもうと助かる。

(白井)平松さん、浅井さんは、今後についてどうお考えになりますか。

(平松)小学校の教室の中で、授業の一環として子どもを対象にそういった課題に取り組んでいくことが大切である。

(浅井)八帖は二十七曲りの西端にある。歩いてくれる人が楽しくなることが大切。工場は操業しているので大変だが、工場周辺の室外機も撤去して白壁が見えるようにした。お金はかけられないが、ゴミをなくす、きれいにペンキを塗りきれいにする、暖簾がかかっているといった小さなことも大切に気をつけている。ものを売ることと同時に、きれいにすることに努めている。

カクキューの早川社長は20年かけて、八丁蔵通りの白い土壁を塗っている。毎年実行することは企業としては大変である。私も大変だが、少しずつ続けていかなくてはならないと思っている。

案内することも大切で、八丁味噌を案内することは、二十七曲りを理解する上で大切である。

(白井)沿道の企業さん、住民の方が意識を持てば少しずつ変わっていくのではないか。中野社長は昔から意識されていますね。

(中野)岡崎は二十七曲りのほかにたくさんのお寺がある。皆、徳川家康など岡崎の歴史につながる。岡崎は京都に次いでお寺が多く、それらは昔の道の両側にある。ただ健康のため歩くのではなく、岡崎の歴史的な意味を知らながら、イメージしながら歩くことは非常に大切。また、関連する資料も整理する必要がある。

昔の伝馬町ですと、皇紀2600年の提灯行列はよく覚えている。歌も覚えている。

(白井)身体にもよい。頭(イメージ)にもよいという方がいい。
お寺など、今でも輝きのあるものは残っていますね。

(中野)お寺は家康ゆかりも多いですが、まだその魅力が発掘されていない所も多い。もっと歴史にも興味を持っていただけるとありがたい。

(植野)最初歩くときは何も知らずに歩いたが、だんだんお寺も含めて知識を蓄えて知ることにより二十七曲りを歩くと、魅力は増してくる。

(白井)歴史的なものばかりではなく、二十七曲り沿線でまだ知られていない輝きなどはありますか？ 会場の方でも結構です。

(参加者との意見交換)

(会場A)板屋町の遊郭はすばらしい歴史遺産である。戦後一般の人々を(米兵の乱暴から)助けてくれた女性の供養もして欲しい。

二十七曲りの金のわらじの看板に番号がついていない。番号がついていないと辿って歩く人が迷う。地図を見ただけでは他所から来た人はわからない。市の担当にも訴えたが動いてくれない。

(白井)市の方もお金が厳しいですし、できることなら私たちが調べてもいい。二十七曲りを訪ね、迷っている方を地元の人が助けてくれる、ということもとても大切なことである。

(植野)今の番号の話は、全国でもテーマになっている。地図をもらってウォークしてもわかりにくいことが多い。曲がり角に案内板を建てて、地図と案内板に番号をつけてほしい。これはぜひ取り入れてほしい。

(白井) 二十七曲りは、歴史的に由来ははっきりしていないからといって、番号を振っていけないとは限らない。来た人にわかりやすく、同時に歴史的な検証もきちんと押さえる。両方とも大切。

(中野) 決め付けなくてもいいのではないかと? 自分で探して歩く。町名は残っているし、その方が面白みがある。

(植野) 地元の人が歩くときはいいが、県外の人ではそれではわからない。他地域では、しっかり番号がつけられている。地図と表示の番号をはっきりさせることで、パンフなどの場所の説明もしやすい。

(会場B)二十七曲りは、迷って歩けない。1人でも家族でも歩けるような案内板があると便利。お寺も多いということで、案内をパンフに入れてほしい。

(活用に向け、市民や団体ができることや団体間の連携方法について)

(白井)今回公式ルートが決まったので、今後修正もしていく。訪れた人が誰でも歩ける道であること、迷っていれば皆が案内してあげることを目指したい。最後にお1人ずつご意見をお願いします。

(浅野)私たちの事業、八丁味噌を通じて県外の人に知っていただくこと、文化を県外の方に知っていただくことを、事業としてやっていきたい。

(植野) 二十七曲りを岡崎市内の人がよく知ること。案内板も番号をつけ整理する。訪れた人を、岡崎市民が「おもてなしの心」でガイドになって案内できるようにする。

(中野) 道に関しては皆さんいろいろ意見があるので、市のほうで詰めてもらう。二十七曲りの位置に関しては、確定することは難しい。ウォークのお客様は、観光客とは別なので便宜を図ってもらう。

(白井) 伝馬町に民設民営の資料館をつくってほしい。

(中野)昔の資料は多いし、関心を持っていただけてうれしいです。お蔵など空家のあてもあるので、なんとか考えたい。

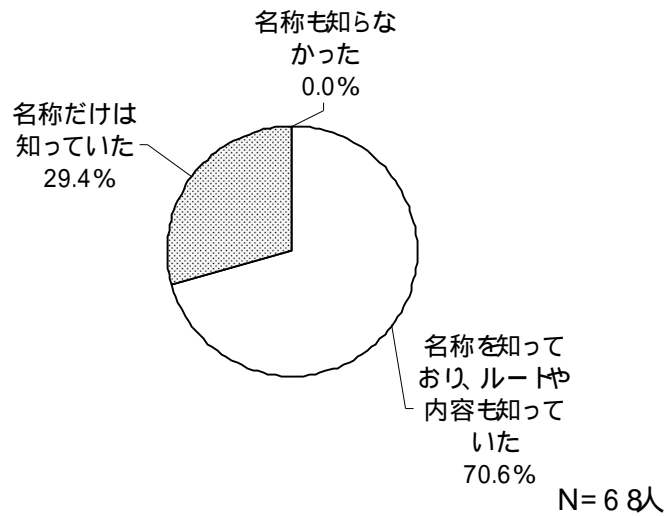
(平松)ハード面では、今まで建立してきた石碑、案内板などのメンテナンス。ソ

	<p>フト面では、小中学生の青少年健全育成の一環として、二十七曲りの学習を行い、理解を深めたい。</p> <p>(コーディネーターによる意見のまとめ)</p> <p>(白井)それぞれが声を出して連携していくこと、二十七曲りというキーワードを軸に市民が一緒になって盛り上げていくこと、官民で協力していければよいのではないかと考える。</p>
<p>閉会</p>	<p>(齋藤)本日は多くの方にご参加いただき、一緒に二十七曲りについて考えることができました。それぞれの思いで二十七曲りがある。それを守っていくこと、その周辺にある歴史観、地域ごとの町のすばらしさを情報発信していくことが市全体の町づくりにつながるキーワードにならないかと思う。</p> <p>22年度からプロジェクトをスタートさせたが、まず見えないものを見えるようにし、きちんとした二十七曲りをプロットしていくことから始めた。今後マップづくりを始め、番号など皆様が満足する取組みを進め、訪れる人が満足するようなコースづくりを進めたい。それをうまく活かしていただくのは、市民の活動あってこそと思うので、今一度御協力いただくことをお願いして本日の挨拶とさせていただきます。</p>

3) アンケート結果

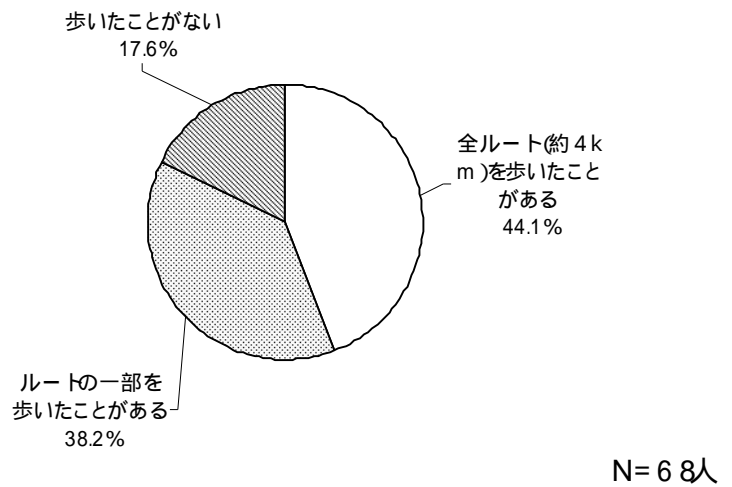
問1 あなたは「二十七曲り」をご存知でしたか。(一つに)

二十七曲りの認知度をお聞きしたところ、「名称を知っており、ルートや内容も知っていた」が70.6%と最も多く、次いで「名称だけは知っていた」が29.4%となっています。



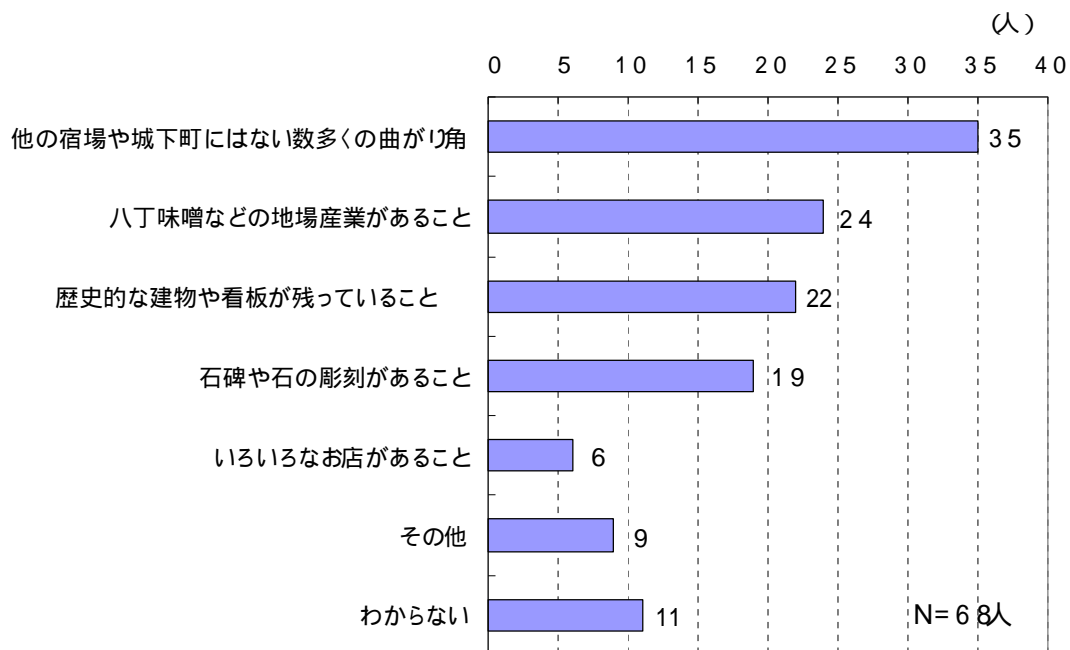
問2 あなたは「二十七曲り」を意識して歩いたことがありますか。(一つに)

二十七曲りを意識して歩いた経験をお聞きしたところ、「全ルート(約4km)を歩いたことがある」が44.1%と最も多く、次いで「ルートの一部を歩いたことがある」が29.4%となっており、「歩いたことがない」は17.6%にとどまっています。



問3 あなたは「二十七曲り」の魅力は何だと思いますか。(該当するもの全てに)

二十七曲りの魅力についてお聞きしたところ、「他の宿場や城下町にはない数多くの曲がり角」が35人(51.4%)と最も多く、次いで「八丁味噌などの地場産業があること」が24人、「歴史的な建物や看板が残っていること」22人、「石碑や石の彫刻があること」19人がつづいています。一方、「いろいろなお店があること」は6人とどまっています。

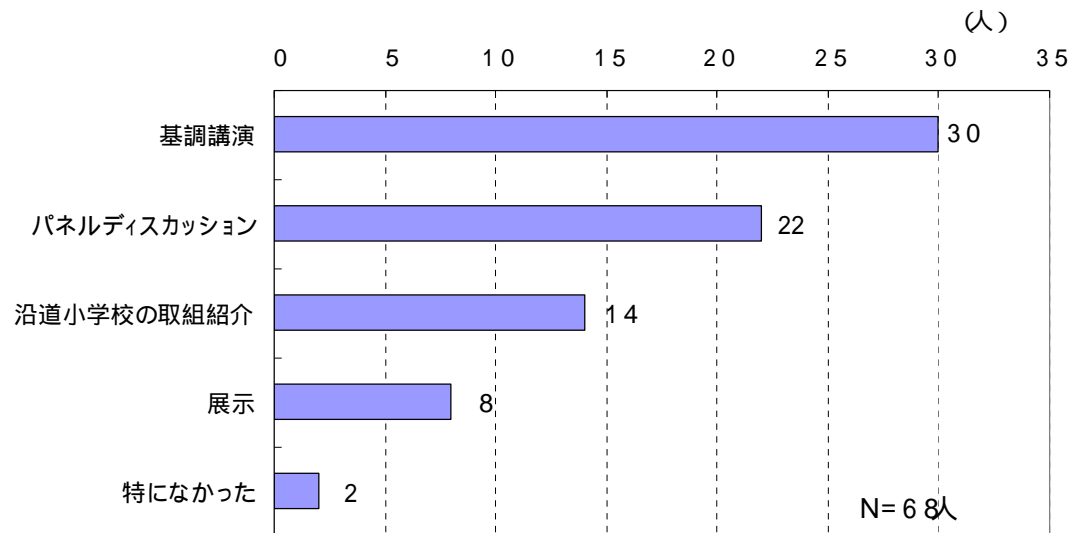


<その他意見>

岡崎の歴史を感じられる(同様な意見 3件)、衰退した産業と地名紹介(魚町他)など

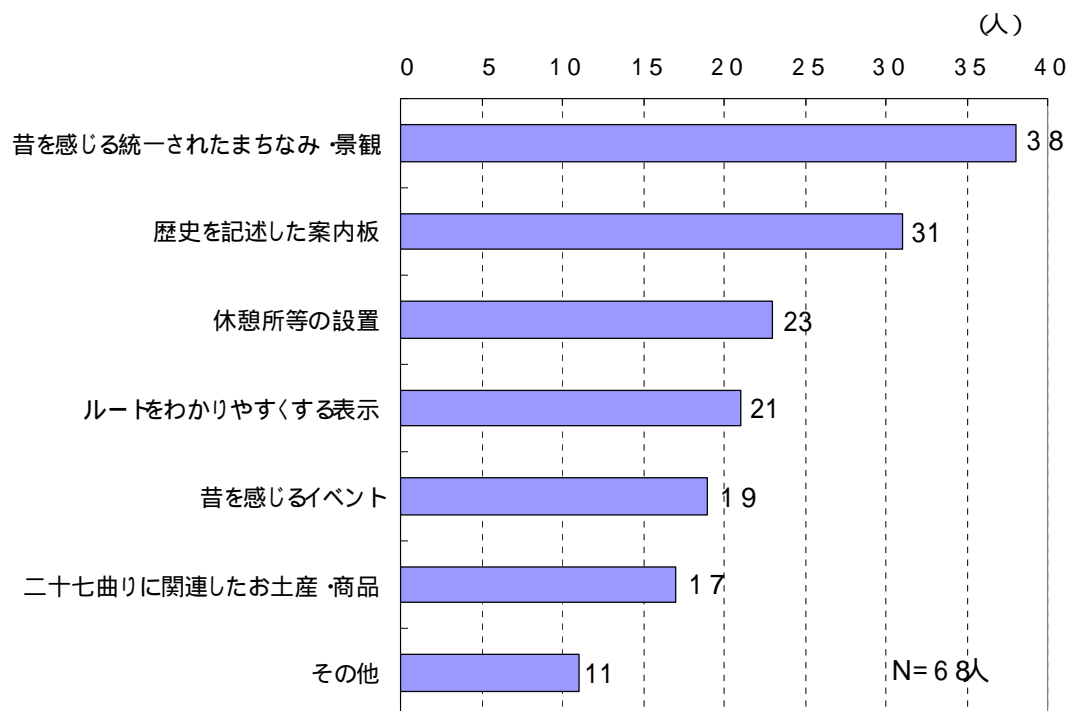
問4 今回のシンポジウムに参加して何が最も良かったですか。(一つに)

今回のシンポジウムに参加して良かったことについてお聞きしたところ、「基調講演」が30人(44.1%)と最も多く、次いで「パネルディスカッション」が22人、「沿道小学校の取組紹介」14人がつづいています。



問5 今後、あなたは「二十七曲り」にどのようなもの・ことがあれば魅力が高まると思われますか。(該当するもの全てに)

二十七曲りにどのようなもの・ことがあれば魅力が高まるかについてお聞きしたところ、「昔を感じる統一されたまちなみ・景観」が38人(55.8%)と最も多く、次いで「歴史を記述した案内板」が31人、「休憩所等の設置」23人、「ルートをわかりやすくする表示」21人がつづいています。



<その他意見>

音声ガイドがあるとさらにUP、市民への周知、理解、協力が観光資源につながる、周囲にある寺社etc.の紹介、周辺、沿道の地域資源の情報提供、常時二十七曲りをアピールするような催しを継続的に行っていくこと、人づくり-地元民の協力、子供たちの学習利用者の意識を高める、二十七曲り沿線で暮らす人と生活にスポット、二十七曲りだけでなく、矢作橋(天下一)岡崎城の大きさ(江戸、大阪、姫路に次ぐ4番目)、宿場町の大きさも含めて三位一体でPRしていく、歴史の体験、歴史文化遺産をつなぐ

問6 自由記述（意見等がありましたらご記入ください。）

32人の方から意見をいただきました。

アイデア

観光、街の繁栄につながるエリアにできるといい。車を締め出してでも、車を使わなくても快適に過ごせるエリアになるといい。
大黒屋にあるような古い松が風景になっているように、ルート随所に黒松を植え育てたらどうか。
町は人の集まりと人の活動でできていると思います。「人」をからめないと二十七曲りもただの道だと思います。
道筋の寺、神社等をガイドしてもらえると魅力が増えると思われる。
二十七曲りとお寺は一体のもの お寺活用（案内板もセット）。康生地区の中で、活力ある「まちゼミ」と融合しては？お寺でもまちゼミとか。
二十七曲りの線のみでなく、周辺のものについても気楽に見学でき、説明文がありというように、面にまで広げた活動でより魅力のあるものにしていくべきだ（寺に限らず）。今のままではずーっと歩いて終わってしまう（飲食店なら休憩所の案内を）。
家康行列の分散化。その土地の武者が歩く 岡崎城に集合
観光ガイドさんによって、二十七曲り関連の寺社も訪れての説明会を是非企画してほしい。参加者が多く来ると思います。
「これ」というものがないのが残念。例えば、川越、長浜、犬山などはそれぞれ特色を持っている。二十七曲りの掘り起こしが不足しているのでは。まず、二十七曲りの資料館を。城下町との関連は。
前ルート歩いたが、途中で休憩できる場所が少ない。乙川沿いを含めて一周するコースが良い。新二十七曲り合わせて五十四曲りで一周コースを作る。
二十七曲りの角が27カ所あったことも示してほしい。
JR岡崎駅からの案内がない。
「二十七曲り」を取り入れた食べ歩きラリーみたいなものを年2回くらいやってみてはどうか。昨年は食べ歩きラリーに参加し、新しい店、街並みを知り楽しかった。
二十七曲りに限らず、岡崎に来たら、あんな名物があった、食べに行こう！見に行こう！というものを創出する必要がある。
行政だけでなく、民間事業者自らが取り組むべき。

PR

NHK全国放送で、岡崎城と八丁味噌をもっと放映されるよう取り上げていただけるよう運動してください。岡崎市広報課を通じNHK、民間テレビ局に二十七曲りとお城を放送されるようPRし、取り上げて。
もっと外部に向けたPRを。
全市挙げてのPR活動の欠乏。
歴史ある岡崎市をイベント、新聞等を利用して知らせる、知ってもらう。関心を持ってもらう。徳川家康の生まれた岡崎をもっと知ってもらう、PRすること。京都に負けない歴史ある岡崎を全国にアピールする。岡崎に住んでいて岡崎を知らないのが大半と思います。

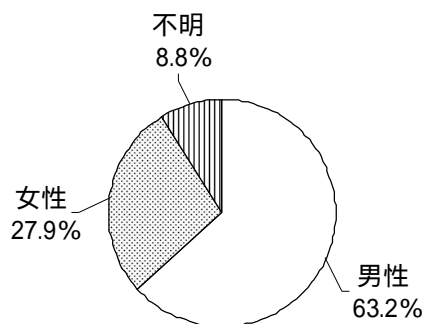
感想

このシンポジウムに参加して是非歩いてみたくなった。参加して良かった。歩いてみて少しでも勉強になり感じる事があればと思います。知識があって見るのと、知らずにそこへ行くのでは思いが違う。知ってから歩いてみたい。
これからも二十七曲りのみならず、岡崎市での歴史も勉強したいと思います。歴史ある岡崎の発展を望みます。
ぜひ歩いてみたいと思います。子どもが小学生の頃、社会科の授業で勉強した時に、その後、子どもたちと一部歩いてみましたが、前ルートではなかったのです。
梅園、根石、連尺の小学校児童の調査、及び未来への提言大変に感銘を受ける。
今まで「二十七曲り」耳にしていたのですが、あまり興味がわかなかったのですが、今回参加してぜひ歩いてみたいと思いました。
参加者が多く驚いた。それぞれの立場で、二十七曲りを活用したり、楽しめば良い。守っていくもの、新たに創っていくものを考えていくことが大切である。市民活動が基本である。
参加者の意見がもっと聞けたら良かったと思う。
春になったら歩いて見ようと思って来ております。
小学校の取り組みはとても良い。継続していただきたいです。
二十七曲りについて、現在まで諸説が流布されていたが、一つの方向性が出された会として成立した。
二十七曲りの歴史、現状、将来の可能性を学ぶことができ、大変有益でした。歴史ブームの風をうまく受けて、今後(現代)のキーワード「環境」「エコ」「健康」を視点にした活用をして、住民、旅行者一体となったまちづくりができると良いと思います。
二十七曲りをいかに多くの人に知ってもらうかが大切かと感じました。
歴史と今の接点。今の楽しみを何とかしたいね。小学生、高齢者、今の楽しみがない？

問7 あなたの性別、年齢、居住地をお答えください。(それぞれ一つに)

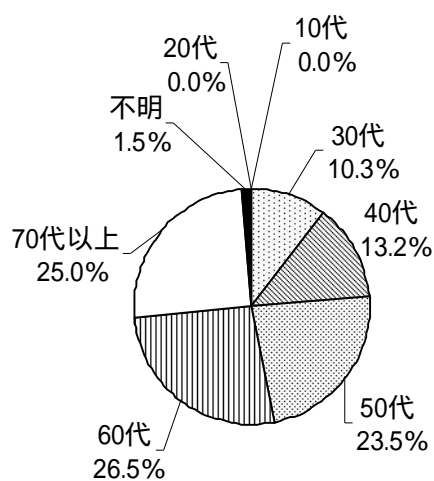
性別

「男性」が 63.2%、「女性」27.9%で男性の参加者が多くなっています。



年齢

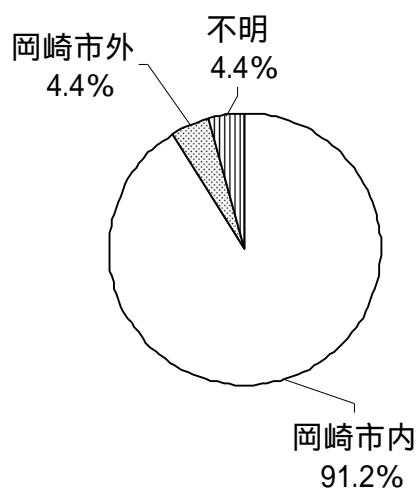
「60代」が 26.5%と最も多く、次いで「70代以上」25.0%、「50代」23.5%が多くなっており、年齢層が高くなっています。



居住地

「岡崎市内」が 91.2%とほとんどを占めており、「岡崎市外」は 4.4%となっています。

N=68人



N=68人

4) 写真

基調講演の様子



二十七曲り沿線小学校取組み紹介等の様子



パネルディスカッションの様子



会場の様子



展示の様子

